

平成 30 年 6 月 14 日現在

機関番号：32409

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K17303

研究課題名(和文) 治癒不能がん患者における心的外傷後成長を目指した心理支援プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of a psychological support program to promote posttraumatic growth in patients with incurable cancer

研究代表者

石田 真弓(Ishida, Mayumi)

埼玉医科大学・医学部・講師

研究者番号：80636465

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：がん患者にとって「治癒不能」を意味する「進行・再発」の精神的なストレスは、初発時よりも大きい。全身状態の確実な悪化が予測される中、精神状態を改善・維持することは患者の生活の質(QOL)を保つために重要かつ不可欠である。当院ではがん患者に生じるさまざまな精神的問題に対し、高度かつ専門的治療を行う精神腫瘍科を設置し、精神的ニーズへの対応として、治癒不能がん患者対象の集団精神療法を実施している。本研究では、集団精神療法によって観察された心的外傷後成長(Posttraumatic Growth)に焦点をあて、それらを促進する介入について検討し、プログラムの作成を試みた。

研究成果の概要(英文)：The psychological distress associated with “incurable” progression/recurrence for cancer patients is greater than experienced at onset. The improvement and maintenance of their psychological state is indispensable to maintaining the quality of life (QOL) of patients facing a definite deterioration in their general condition. In our hospital, we set up a Psychiatric Department that carries out advanced and professional treatment for the various psychological problems arising in cancer patients, and conduct group psychotherapy in response to the psychological needs of patients with incurable cancer. In this study, we focused on the Posttraumatic Growth observed in group psychotherapy, examined the types of intervention for the promotion of such growth, and attempted to prepare a specific program.

研究分野：精神腫瘍学

キーワード：治癒不能がん 集団精神療法 心的外傷後成長 臨床心理学 精神腫瘍学

### 1. 研究開始当初の背景

がん患者の50~60%は進行・再発によって治癒不能となり、死の転帰をたどる。よって、「治癒不能」を意味する「進行・再発」の精神的なストレスは、初発時よりも大きい。全身状態の確実な悪化が予測される中、精神状態を改善・維持することは患者の生活の質(QOL)を保つために重要かつ不可欠である。当院ではがん患者に生じるさまざまな精神的問題に対し、高度かつ専門的治療を行う精神腫瘍科を設置している。そこでは「治癒不能」の告知後、日常に支障をきたすような精神的問題が生じ、受診に至るケースも多く、不安・抑うつなど精神的ニーズへの対応として、治癒不能がん患者対象の集団精神療法を実施している。これまでに転移性乳がん患者を対象とした集団精神療法、特に抑うつ・不安を持つ患者への有効性が報告されており、当科ではその対象を広げがん種(原発部位)を限定せずに実施している。

本研究の予備的研究として、上記集団精神療法への参加者を対象に後方視的研究を実施し、患者背景、参加状況の調査、精神・心理的問題とニーズの分析を行い、治癒不能がん患者に特徴的な精神・心理的ニーズを確認した。結果として、原発部位は膵がん・肺がんなど予後の厳しいがん種の参加も多く、

参加状況調査から、体調不良や治療により3ヵ月・6ヵ月の連続参加が困難な現状があり、精神・心理的側面では患者間の心理的相互作用が生じ、患者内で認知再構成が生じることで不安・抑うつの改善、さらには心的外傷後成長(Posttraumatic Growth; 以下PTG)が観察された。よって、こうしたニーズや特徴・現状を踏まえた、治癒不能がん患者に対する心理支援として、PTGを目指した集団精神療法プログラム開発の必要性が示唆された。

### 2. 研究の目的

本研究は、がんの進行・再発に伴い治癒不能を告知されたがん患者の心理面に焦点を当て、その心的外傷後成長(Posttraumatic Growth)を目指した心理支援プログラムの開発を行う。がん患者にとって進行・再発は「治癒不能」を意味し、その破局的な心理的打撃から精神的健康の悪化が指摘されている。しかし、申請者のこれまでの研究から、進行・再発がん患者を対象とした集団精神療法によって、精神状態の維持・改善がはかられ、心的外傷後成長に至る可能性が示唆された。本研究では、心的外傷後成長を目指した心理支援プログラムとして集団精神療法を発展させ、治療法として確立・普及させることを目的とする。

### 3. 研究の方法

治癒不能がん患者における心理支援プログラムの確立とその普及に必要な要素を確認するため、下記のデータを収集し分析する。

(1) 治療に参加した患者の身体・精神状態推移、PTG生起の診療録後方視的調査

(2) 治療による精神状態改善・PTG生起プロセスの解明

(3) プログラムの作成

上記(1)(2)によって治療プログラムを開発し、(3)プログラムを作成する。

### 4. 研究成果

(1) 治療に参加した患者の身体・精神状態推移、PTG生起の診療録後方視的調査

2007年5月から2018年3月までに集団精神療法に参加した患者の年齢・性別・がん種・参加開始日と参加最終日、一定期間の参加継続・中断の有無、欠席理由、中断時はその理由について転帰を含めて後方視的に調査し、臨床的に実施可能なプログラムの構成を検討した。

集団精神療法は2007年5月から2018年3月までに、計131回開催され、48人の進行・再発がん患者が参加した。参加者は平均年齢59.4歳で、男性8名(16.7%)、女性40名(83.3%)であった。原発は乳がん(N=13, 27.1%)が最も多く、大腸がん(N=9, 18.8%)、膵がん(N=7, 14.6%)と続き、参加者の原発部位は10部位に及んだ。

集団精神療法への参加条件は、集団精神療法の治療適応、参加希望が必須であり、これらを満たした患者が各回への参加を自由意思で決定している。調査期間中、集団精神療法に複数回参加した者は36名(75%)、1回のみ参加はその理由を問わず12名(25%)であった。

集団精神療法は、自由意思によって各回の参加を決定できるため、体調不良や治療の都合、自己都合等で欠席しても、翌月の参加が可能である。調査期間中、集団精神療法に「欠席」ではなく、参加継続困難となった理由(その後の集団精神療法へは参加していない理由)について調査した。なお、本調査では、現在も継続的に参加している3名を除いた45名を対象に分析を行った。最も多かった中断理由は「体調不良」(N=33, 73%)であった。本集団精神療法は外来で実施しており、患者の初回参加時のPerformance Status(PS)は0または1であることが多く、急激な病状の変化による継続困難であった。続いて多かった中断理由は「治療のため」(N=4, 9%)、「復職」(N=2, 4%)であった。患者自身の意思で継続的な参加を希望しなかった2例では、「自分には合わないと思った」「『死』について話し合いたくない」とその理由を述べた。

(2) 治療による精神状態改善・PTG生起プロセスの解明

本集団精神療法では、参加者による発言回数や、発言の内容を逐語録によって後方視的に調査することにより、精神状態の改善・PTG生起プロセスの解明を行った。参加者は参加当初は発言回数が少ないが、回を重ねるにつ

れ、あるいは新規の参加者が加わるタイミングで発言回数が増えることが観察された。自身の成長に関しては、参加者の発言から観察されることも多く、下記にそのいくつかを引用する。「この会に参加して、皆さんに会うたびに自分も成長することができる(50代・乳がん・女性)」「生きていく日々に関わることができることを探していかなければならない。この会が考えるきっかけになっている。(50代・乳がん・女性)」「この会に参加している中で自分が成長してきた、元気の作り方がわかってきた。やろうという気持ちが出てきた。(60代・大腸がん・女性)」参加者による「成長した」という発言からもみられるように、主観的にも客観的にも集団精神療法への参加を通してPTG生起が観察されることが明らかになった。

### (3) プログラムの作成

本集団精神療法は、プログラムによって構造化されており、会の趣旨説明、自己紹介と、この1か月間のできごと、前回の課題について、質問を取り扱う(医療者への質問・他参加者への質問)、次回までの過ごし方と、感想、次回の課題の順に話し合いを進めていく。これまでに課題として扱ったテーマは、「今の私だからできること」「伝えたいこと」「大切にしていること」「私の夢」など約50種類にわたり、それぞれがこれまで当科で得られた臨床的な知見や、進行がん患者を対象とした精神療法の先行研究などから検討されている。本課題により、集団精神療法内の話し合いが促進され、課題を通して、あるいは他者の発言を通して自身について観察する機会となっている様子が観察された。

本研究結果から、集団精神療法で構造化されたプログラムを実施することにより、不安・抑うつ改善のみならず、PTGの生起が明らかになった。また、本集団精神療法への参加可能性について検討した(1)の結果を踏まえ、本集団精神療法は単回プログラムによって構成されるものとし、1回の参加でも、連続した参加でも、患者にとって利益になるような形で運営されることが望ましいと考えられた。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)すべて査読あり

- (1) Onishi, H., Ishida, M., Kagamu, H., Murayama, Y., Kobayashi, K., Sato, I., Uchida, N., Akechi, T. (2018). Wernicke encephalopathy in a lung cancer patient during treatment with nivolumab.

Palliative & supportive care, in press.

- (2) Onishi, H., Ishida, M., Takahashi, T., Taji, Y., Ikebuchi, K., Furuya, D., Uchida, N., and Akechi, T. (2018). Wernicke encephalopathy without delirium that appeared as agitation in a patient with lung cancer. Palliative & supportive care, in press.  
doi: 10.1017/S1478951518000226.
- (3) Ishida, M., Onishi, H., Morita, T., Uchitomi, Y., Shimizu, M., Tsuneto, S., Shima, Y. & Miyashita, M. (2018). Communication Disparity Between the Bereaved and Others: What Hurts Them and What Is Unhelpful? A Nationwide Study of the Cancer Bereaved. J Pain Symptom Manage, 55(4), 1061-1067.e1061.  
doi:10.1016/j.jpainsymman.2017.12.493.
- (4) Onishi, H., Ishida, M., Tanahashi, I., Takahashi, T., Kato, H., Ikebuchi, K., Taji, Y., Akechi, T. (2018). Early detection and successful treatment of Wernicke's encephalopathy in outpatients without the complete classic triad of symptoms who attended a psycho-oncology clinic. Palliative & supportive care, 14(3):302-6.  
doi: 10.1017/S1478951518000032.
- (5) Onishi, H., Ishida, M., Tanahashi, I., Takahashi, T., Taji, Y., Ikebuchi, K., Furuya, D. & Akechi, T. (2017). Subclinical thiamine deficiency in patients with abdominal cancer. Palliat Support Care, in press [Epub ahead of print]  
doi: 10.1017/S1478951517000992.
- (6) Onishi, H., Ishida, M., Tanahashi, I.,

Takahashi, T., Taji, Y., Ikebuchi, K., Furuya, D. & Akechi, T. (2017). Wernicke encephalopathy without delirium in patients with cancer. Palliat Support Care, 16(1):118-121. doi: 10.1017/S1478951517000360.

- (7) Ishida, M., Kawada, S. & Onishi, H. (2017). A case report of brief psychotic disorder with catalepsy associated with sequential life-threatening events in a patient with advanced cancer. Biopsychosoc Med, 11, 10. doi: 10.1186/s13030-017-0095-7.

〔学会発表〕(計 8 件)

- (1) Mayumi Ishida, Hideki Onishi. Caregiver 's Clinic: Its Targets, Their Diagnosis and Outcome. T56. 2018 American Psychosocial oncology society Annual Conference in Tuscon, AZ, USA. February, 2018.
- (2) Mayumi Ishida, Hideki Onishi. "It is over and I will probably die soon" Catalepsy associated with sequential life threatening events in a patient with advanced pancreatic cancer. 2017 World Congress of Psycho-oncology, August 2017, Berlin, Germany
- (3) Hideki Onishi, Mayumi Ishida, Takao Takahashi. Wernicke Encephalopathy presented in the form of postoperative delirium in a patient with carcinoma of gingiva. MSCC7-0450. 2017 MASCC/ISOO Annual Meeting on Supportive Care in Cancer taking place June, 2017 in Washington DC, USA.
- (4) Mayumi Ishida, Hideki Onishi. Factors related to major depressive disorder in the bereaved seeking medical

counseling at a cancer center. World Congress of Psycho-oncology, October 2016, Dublin, Ireland

- (5) Mayumi Ishida, Hideki Onishi. Manic episode after life-threatening brainstem metastases MASCC(The Multinational Association of Supportive Care in Cancer)/ISOO Annual Meeting on Supportive Care in Cancer taking place June, 2016 in Adelaide, Australia.
- (6) Mayumi Ishida, Hideki Onishi. "Development of Group Psychotherapy for Patients with Advanced or Recurrent Cancer: Preliminary Study on Discontinuation of Participation". 2016 13th American Psychosocial Oncology Society Annual Conference in San Diego, CA, March, 2016.
- (7) Mayumi Ishida, Hideki Onishi. Missing memories of death: Dissociative amnesia in the bereaved the day after cancer death. 23rd World Congress on Psychosomatic Medicine. Glasgow, August, 2015.
- (8) Mayumi Ishida, Hideki Onishi. Which factor is related to psychiatric diagnosis in the bereaved seeking medical counseling at a cancer center? World Congress of Psycho-Oncology. Washington, DC, USA, July 2015.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石田 真弓 (ISHIDA, Mayumi)

埼玉医科大学・医学部・講師  
研究者番号：80636465